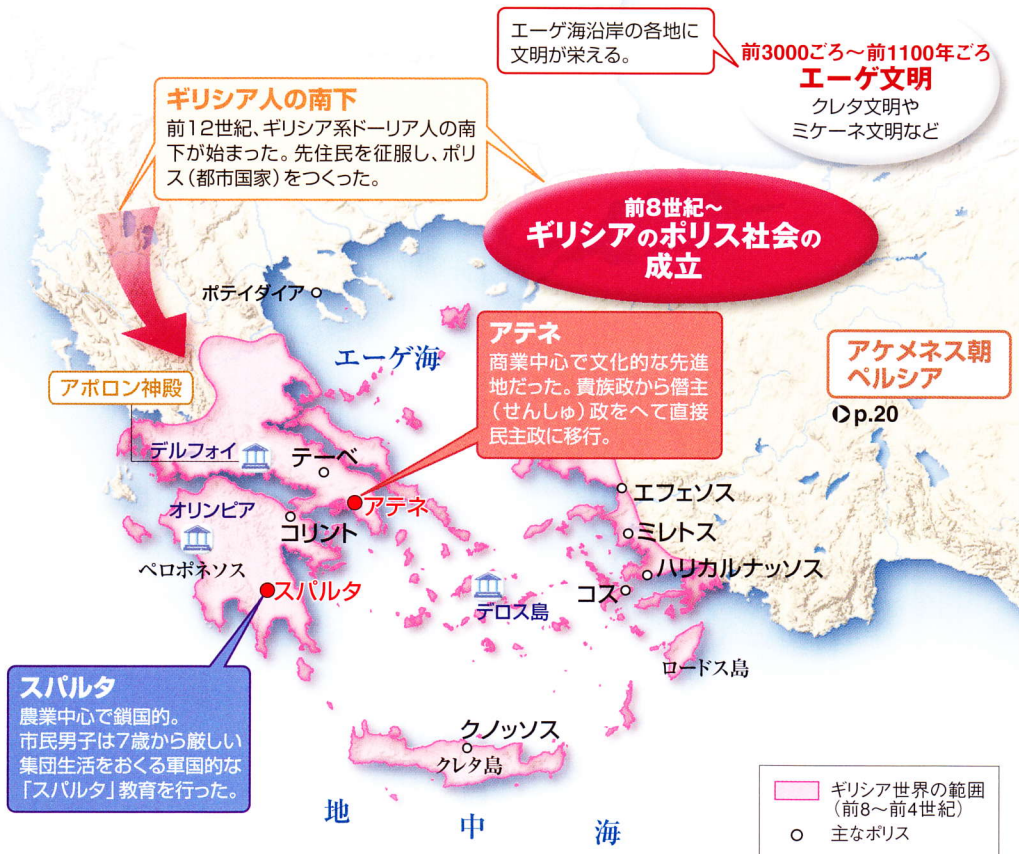


ポリス社会の誕生で 確立したギリシア世界

ギリシアのポリスの誕生



スパルタ
農業中心で鎖國的。市民男子は7歳から厳しい集団生活をおくる軍國的な「スパルタ」教育を行った。

アッティカ地方のアテネでも前6世紀初め、貧富の差が広がり、借財を抱えて奴隷になる中小農民も現れた。借財の帳消しや財産に応じて参政権が決まる財産政治の実施などの改革を敢行したが、混乱が続いた。平民の貴族への不満を背景にした

2大ポリスの台頭
商業のアテネ、軍事のスパルタ

ギリシア全土を巻き込んだ諸民族の大変動のち、ギリシア人は前8世紀ごろ、各地にたくさんポリス(都市国家)を形成しはじめた。ポリスは人口数百から数千で、中心市街に住む貴族や商人と、郊外に住む平民(農民)に分かれ、それぞれ奴隷をもっていた。各ポリスはさかんに交易活動を行い、地中海や黒海の沿岸に植民市を建設した。前7世紀貨幣が流通するようになると、裕福な平民が台頭し、支配層の貴族との対立が生まれた。

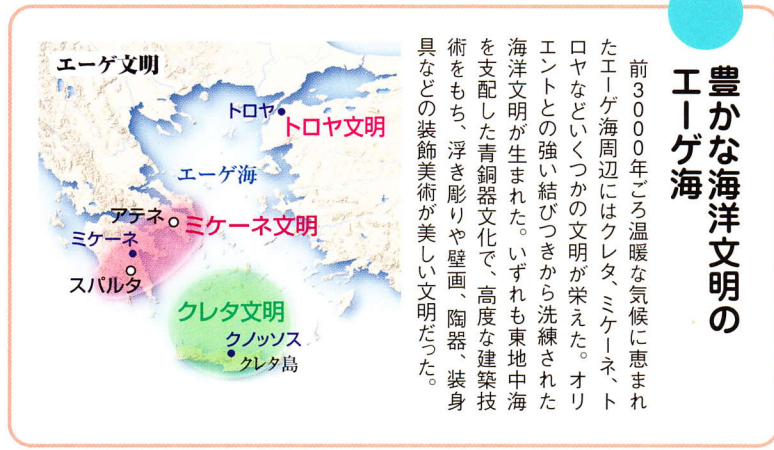
**民族大移動の末に
生まれたポリス社会**

前3000年ごろ、地中海東部のエーゲ海に、オリエント文明の影響を受けてエーゲ文明が生まれた。この文明は高度な海洋文化を誇ったが、前12世紀のギリシア系ドーリア人の南下や、以後400年にわたる民族移動の混乱のなかで滅んでいった。

ギリシア全土を巻き込んだ諸民族の大変動のち、ギリシア人は前8世紀ごろ、各地にたくさんポリス(都市国家)を形成しはじめた。ポリスは人口数百から数千で、中心市街に住む貴族や商人と、郊外に住む平民(農民)に分かれ、それぞれ奴隷をもっていた。各ポリスはさかんに交易活動を行い、地中海や黒海の沿岸に植民市を建設した。前7世紀貨幣が流通するようになると、裕福な平民が台頭し、支配層の貴族との対立が生まれた。



エーゲ海を中心に
ポリスを形成し、
独立と自由を誇った
古代ギリシア人。



独裁的な僭主による政治が行われたが、のちに暴政が行われるようになり、支持を失った。その後、ペルシア戦争後の前5世紀なかば、直接民主政が導入された。

一方、ペロポネソス半島のスパルタは、たびたび近隣を侵略し、征服した土地を少数のスパルタ市民で分配し、被征服民は商工業に従事するペリオイコイ(劣位の市民)と、ヘイロータイ(隷属農民)として隷属させていた。少数のスパルタ市民による支配を安定させるため、鎖国政策や、市民男子への幼年期からの厳しい軍事訓練といった、軍国主義的な体制(リュクルゴス体制)が敷かれた。

Key Word シュリーマン
[1822～90年]

ドイツの考古学者。子どものころから古代の世界に憧れ、詩人ホメロスが描いたトロヤ文明の存在を信じて、1870年、48歳にしてついにその遺跡を発見、世界に衝撃を与えた。現在もその情熱は受け継がれ、木馬作戦で有名なトロヤ戦争がはたして史実であるのか、発掘調査は続いている。また、シュリーマンはミケーネ地方の発掘も行っている。